



2012 スマートグリッド展

見てある記

植物工場市場が形成されつつある。「無菌栽培なので安心」「見た目のいやし効果がある」と導入機運が高まっている。このビジネスチャンスを狙って参入企業も相次いでいる。東京・有明の東京ビッグサイトで開催中の「スマートグリッド展2012」の「植物工場・スマートアグリゾーン」で動きを探った。

とれたてアピール

万世電機は大阪府立大
学などの協力を得て、シ
ョーケースタイプの植物
工場「リーフラボ」を開

発。レストランやスーパ
ーでの展示のほか、小学
校食育や老人ホームでの
活用を見込む。「レスト
ランに置けばとれたての
野菜をアピールでき、老
人ホームに設置すれば農
薬を使わないため入居者
食事に使える」と営業担
当者。リバネス（東京都
新宿区）は外食産業の店
舗に植物工場を置いて客
がその場で食べる店産

店消費モデルを提唱。
「外食産業にとって客と

植物工場

のコミュニケーション
ールになる。客に種や苗



注目されるショーケースタイプの植物工場（万世電機のブース）

安心・いやし効果で導入進む

利点は安定供給

露地栽培野菜に比べて植物工場の野菜の利点は年間を通じて安定供給ができること、歩留まりの高いこと。「露地栽培野菜だと虫や土がつくため外葉や芯を捨てなければならず、可食割合は50%近くに下がる」と、農林水産省花き産業・施設園芸振興室の堀川昌昭課長補佐は指摘する。外食企業ならこの分の廃棄ロスや、水洗などにかかる人件費も無視できない。植物工場野菜はほぼ全部

る」（同省）と話す。徳寿工業（高松市）の「SIP L植物工場」では、栽培するグリーンリーフのビタミンCが通常栽培の3〜4倍、糖質（甘味）は4〜6倍にできる点をアピール。養液成分の工夫に加え、肥料成分の硝酸性窒素を減らしても生育に影響がでないようにする栽培技術、照明や光波長コントロールなどに「他社がまねできないノウハウがある」と農業施設課の社員は語る。近接照明型の発光ダイオード（LED）を手

遠隔地研修

を植えてもらって育てるようにすれば、来店リピーターにもつながる」（丸幸弘社長）と、副次利用でき、生ゴミが少ないうえに、栄養価も「最近の担当者は「赤色や白色、青色などのLEDの波長工夫や植物の生育期

に合った照明の工夫で栄養価を高めることは可能」と指摘する。一方、植物工場に注目しているのはメーカーばかりではない。建築設計会社のアイ・エム・エー（東京都中野区）は2007年に植物工場関係の教育事業に進出。「（とくに08年のリーマン・ショック後）遊休物件が急増し、空いた建物をどう生かすかが新市場になると考えた」と金田光市植物工場事業部長は狙いを明かす。植物工場管理技術養成科ではこれまでに計112人の研修生を送り出してきた。今後は企業の定年退職者らも対象に、eラーニングによる遠隔地研修も始めたい考えだ。